

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を「幸輪」とし地域の中でその人らしく暮らしていくのは勿論、理念である幸せの輪を広げ楽しく有意義な時間を共に末長く過ごせるように支援している。		毎朝のミーティング時、職員で唱和している。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の目のつくところに提示し、日々意識向上に努めている。		毎朝のミーティング時、職員で唱和している。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族には入居時に説明をし、理解して頂ける様取り組んでいる。地域の方々にも理解して頂ける様、次回開催予定の地域推進委員会の内容に組み込んでいる。		今後、地域推進委員会を開催時に、地域の方々にも理解して頂ける様にしていきたいと考えています。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会に入ったばかりなのでごみステーションの清掃、町内活動に参加させて頂く事、ホームのお便りを回覧板で回して頂き近隣の方々にホームを理解頂く事などを今後実施していくよう努める。		地域の人たちに気軽にホームに立ち寄ってもらえるようなきっかけ作りがまだ必要で日々職員と共に模索しているところです。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	学校との連携を取り「こども110番」や体験学習として、場の提供をしている。		町内会長さんとの話の中で町内の福祉部との連携を取りながら活動していきたいとお話をいただきました。今後、地域の方々とは相談し、取り組んでいきたいと考えています。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会からの相談もあるとのことなので、今後、役立てるよう取り組んでいく予定だが、現在は果たされていない。		介護予防、応急処置等職員の意識向上も含め、地域の人々の暮らしに役立てる学習会を定期的に関催できるよう取り組みたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>初めての外部評価を受けることにあたり、全職員での自己評価内容を再確認しています。</p>	<p>自己評価、外部評価を実施する意義は会議の中で話し合い評価を受けることによって当ホームの問題点や改善点などを理解し、各委員会の議題に載せる予定です。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域推進委員会を立ち上げたばかりで、委員会開催予定の旨を地域の方にも提案中です。</p>	<p>地域の方からも協力の要望も見られるため、今後開催の結果、サービスの向上に活かしていきたいと考えています。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>立ち上げ当初より、現在に至るまで、市町村との連携を図ったとの記録は残っており、取り組まれていなかった事が事実です。</p>	<p>運営推進会議も含め市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいきたいと考えています。市主催の会議には出席するよう検討中。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要と思われる入居者については、入居者や家族と相談するなどして、対処、支援するよう努めている。勉強会としての取り組みはされていない。</p>	<p>権利擁護、成年後見制度については日頃より勉強会をし全員が理解出来るようにすると共に必要な人には詳しく説明ができ迅速に対応できるよう努めていきたいと思っております。内部研修委員と検討中。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については日頃より勉強会をし全員が理解出来るようし虐待が起こらない環境づくりと職員がストレスを溜めない、悩みを気軽に話せる雰囲気を作りたいと努めているところです。</p>	<p>内部研修委員と抑制廃止委員が検討中。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約に関することは入居時に利用者、家族に丁寧に十分理解して頂ける様説明し不安、疑問点を解消して頂き同意を得た上で契約して頂いています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、苦情などは意見箱を設けている。利用者や、家族が気軽に職員等に話せる雰囲気づくりを常に心掛けている。		これからは、家族会を設け意見、要望に対して迅速に対応し苦情の発生原因を課題として検討し向上を目指していきたいと思います。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的にお便りや個々の手紙をご家族に送っている。面会に来られたご家族に対しても日々の生活状況をお話しています。		特変についてはその都度電話でお知らせしています。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情に対しては重要事項説明書に苦情申し立てについて、当事業所とそれ以外の相談シツの電話番号を明記している。		苦情内容によっては検討会議を行う。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り、各委員会、職員会議等の場で職員の意見、提案を反映できるよう皆で話し合える時間、場をつくっている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態の変化や状況に対応できるような職員数の確保、管理者は状況に応じた対応が出来る様通常の勤務には入らないよう柔軟な体制づくりを行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、ご家族への信頼関係を築く為にも馴染みの関係づくりを大切に、日頃からの情報交換を密に行うよう勤めると共に職員全員が利用者との係わりを持ち、日々のコミュニケーションに注意を払っている。		職員異動や退職時にもきちんと説明の上、ご理解いただけるよう対処していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所外で開催される研修には、勤務体制を調整しながら参加させたいと思っているが、全ての研修に参加してもらうには人員不足になる恐れがあるので現状は難しい。</p>	<p>職員の向上のために研修等参加できるような体制を考えていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>連絡会に入り学習会、交流会には参加するよう心掛けているがなかなか参加できないのが現実である。</p>	<p>もっと密に交流を持ち他ホームの見学、相互研修会などを利用し質の向上に努めていきたいと思います。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常、面談時、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。</p>	<p>確立した休憩場所づくりを検討中。ストレスを溜め込む事がないよう気軽に話をできる関係作りに努めていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は頻繁に現場に来ており利用者や過ごしたり、職員の勤務状況を把握している。</p>	<p>各職員が向上心を持って働けるよう職能評価を明確にしていきたいと考えています。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談で本人の思いや不安を聴きその不安を取り除けるよう、よく話をしその中で信頼関係づくりが出来るよう努めている。</p>	<p>生活状況、本人の話の中から不安、苦しんでいること等理解し安心して生活できるよう支えていくことを伝えていきたいと思います。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>まずゆっくりと話を聴き、今何に困っているか、求めているものは何か、家族の不安をひとつづつ解消してもらえるよう努めている。</p>	<p>利用者は勿論、家族に対しても相手の立場に立ち誠実に対応するよう心掛けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時 本人やご家族の思い、状況等を確認し求めている支援の提供をする。場合によっては地域包括支援センター等他のサービスにつなげるなどの対応をしている。		自分のホームでは出来る事に限りがあるので他のサービス機関を紹介するなどケアマネとも十分な連携が必要と思われる。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族がホームに来てもらうことから始め、ホームの雰囲気に慣れていただくのがベストではあるがやむを得ずすぐに入居となるケースが多いのが現実です。		本人や家族が納得できるまで時間を掛けて頂き、このホーム、職員に安心感を持って頂けるように対応していきたいと考えています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ひとりひとりの出来る事、出来ない事を把握し一緒に行う事を大切にしている。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており利用者から学ぶ場面もある。		利用者の出来る事、やれる事を少しずつ増やし共に支えあう場面作りを心掛け実行していきたいと思っています。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居してしまうと家族との関わりが希薄になってしまうのが現実でホーム任せの部分が多い。利用者の日々の様子は手紙などでは伝えているが不十分である。		ご家族にもっとホームに立ち寄って頂けるような工夫が必要で利用者の日々の暮らしぶりや職員の思いなどをきめ細かく伝えていこうと思っています。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の家族への思いを大切にしご家族に伝えているが一方通行になりがちな部分もある。		行事、レク、お誕生会等ご家族に密に連絡を取りながら利用者と一緒に過ごす時間づくりを職員と共に考えていきたいと思います。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前から利用している美容室へ通うのが楽しみという利用者には継続的に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の仲の善し悪しに配慮し孤立することなく個別に対応したり皆で楽しく過ごす時間を職員が心掛けている。		利用者同士の関係性について職員間で共有し助け合い、かばい合いができる関係づくりを支援していきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された方でも退所時に相談や支援に応じられる事を伝え不安を取り除くお手伝いが出来る様努めています。		退所の際には退所後の生活全般に不安を抱いている事について、詳しく説明できる様勉強し不安をひとつでも取り除いて頂けるよう支援していきたいと考えています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどのように暮らしたいか、何を求めているのか、日々の関わりの中で声掛けをし把握するように努めています。		毎日関わる中で本人の意思や希望を読み取り希望に副えるよう心掛けています。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、ご家族から生活歴、馴染みの暮らし等の情報をいただくのは勿論のこと入居されてから ご本人との関わりの中で把握するよう努めています。		折に触れて個別にお話することを心掛け以前の生活歴、生い立ち等聞かせていただくことがあり職員が共有している。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に小さな変化も感じとり全体像を把握してる。		利用者の現状の把握は安全に暮らしていく中で大切なことで、職員間で共有しケアに生かしていきたいと、小さな変化も申し送りで話し合っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者がより良く暮らす為には本人、家族の思い等を聴き反映させるように職員全員でカンファレンスを行い介護支援専門員自ら利用者信頼関係を築けるよう関わりを持っている。		利用者の発する何気ない言葉の中にもその人の思いがあるのではないかと同じ目線で会話することを職員全員が心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状態変化は職員の記録、報告により把握し必要に応じて介護計画の見直しを行えるよう介護支援専門員と情報を共有している。		今まで大きな状態の変化は見受けられないが、小さな状態変化も見逃すことが無いよう職員の意識向上を図っているところです。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを用意し食事、水分量、排泄等身体的状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにし勤務開始前の確認は必ず行っている。		職員の気付きは申し送り等で共有し、よりよいケアが出来るよう報告、連絡、相談を今以上に徹底していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かし利用者の負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続を目指している。		利用者の負担となる受診などは少しでも減らしていけるように毎日の体操、散歩を行い健康維持に努めています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう地域の方々との連携をとれる体制づくりを始めたところです。		町内会、民生委員、小中学校との交流の場をつくり利用者との馴染みの関係づくりを行いたいと運営推進会議を行いました。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	生活保護の方が多いため、利用できるサービスが少ない為に活用していない。		今後は入居者の体調などにより、利用できるサービスを増やしていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今迄は地域包括支援センターとの交流が無かったが、協働依頼を行い、連絡を取り始めたばかりで、具体的な協働体制は現在出来ていない。		ケアマネジャーが新しくなった為に、ホーム内のケアプラン等、整理し今後協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の協力医、利用者のかかりつけ医で医療を受けられるようにしている。月2回の往診時先生がきめ細かな対応をしてくれている。		往診時、利用者の日々の変化を相談し適切な指導を頂いている。先生と利用者の信頼関係が築けていると思われる。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	脳神経外科の病院とは協力医としていただいている。受診時等に相談している。		脳神経外科なので認知症の知識をもっているのが安心である。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の確保は出来ていない。利用者の急変時には往診に来ていただいている先生が24時間対応してくれる。		月2回の往診時に相談すること、急変時、不安な時はすぐに連絡し適切な対応の仕方を教えていただいている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院によるダメージを極力防ぐ為病院関係者と情報交換、相談に努めている。		日頃より状態の変化を共有し医療関係者との連携を密にし入院に至らないよう支援すると共に早期に退院できるよう、情報交換や相談に努めたいと思います。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在は重度化、終末期の方針は確立していない		重度化や終末期のあり方はこれから受け入れていかなければいけない事で本人、ご家族事業所、医療関係者と十分話し合いを持ち、方向性を考えていきたいと思っています。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期の利用者に対する支援は未経験で事業所として出来る事、出来ない事を見極めて受け入れ体制づくりを考えている。		重度化、終末期を安心して迎えていただく為には職員が一丸となって取り組まなくてはならない事で今以上の意識向上を目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	利用者の環境や暮らしの変化によるダメージがあることを理解していただき事業所の持っている本人の生活状況をご家族に伝えている。		利用者のダメージはご家族にとっても大変なことなので利用者、ご家族には事業所との関係を断ち切らない事を伝え、いつでも情報提供できるようにしている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日頃より声掛け、言葉遣いについて話しをしている。本人のプライバシーを損ねることが無いよう、また他人に気づかれない配慮をしている。		何気ない言葉にも注意を払い自分の立場に置き換えて考えるよう話をしているがまだ不十分な所があり今以上に意識向上を図りたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者にあわせてゆっくりとわかりやすく声を掛けたり、複数の選択肢を提案、誘導的でない質問で意思表示を大事にするよう努めている。		全ての面において意思表示ができるのは理想であるがやはり利用者一人ひとりの変化に注意をばらう力をつけていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが一人ひとりの体調に配慮しながらその人のペースで過ごしていただいている。		一人ひとりの「したい事」をひとつでも多く叶えてもらえるよう支援していきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	着替えは本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要ときに手伝う。その日の気温も知らせ気候にあった服装に心掛けている。		本人の馴染みの理美容室に行くよう支援している。他の方は訪問理美容師の方に来ていただきその人の希望に沿って行っていただいている。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	現時点は後片付けを手伝っていただいている。山菜など興味のあるものは積極的に下ごしらえをする。職員と利用者が同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。		菜園を作っているので草取りから収穫等利用者と一緒にできることがあり皆が楽しみにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	糖尿病の方には一度にたくさん摂取しないよう預かっている。タバコは預かっているが本人の希望に沿って他の利用者の迷惑にならないよう場所に配慮している。		体重増、糖尿病等に気をつけながら利用者の嗜好物を楽しめるよう支援している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し排泄のリズムを知ることでその人に合わせたトイレ誘導を行っています。		声掛けすることによりトイレで排泄できるようにこれからも支援していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングにあわせた入浴は理想だが難しい面がある。		入浴拒否のある人には言葉掛けや対応の工夫を職員間で話し合いをもっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促がし生活のリズムを整えるように努めている。一人ひとりの生活リズムを把握しすぎさない配慮もしている。		利用者一人ひとり自由に過ごしていただきたいが、やはり生活のリズムは崩さないように心掛けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の暮らしの中でその人の出来る事、興味を持っていること等できるだけお手伝いをしていただくようにしている。		出来るだけ全員が役割を持ってやれば出来るんだという自信につながるような支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な限りご自身で管理していただき要望によってはこちらでお預かりすることもある。		家族の考えもあり事業者立替という方もいるが買物の際には自分の財布からお金を払うということを体験していただきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、体調の良い日には肌で季節を感じてもらいたいので散歩等、外に出るよう支援している。		全員が外出とはいかないが出来るだけ季節のうつり変わりを自身の肌で感じてもらえるよう、もっと外出を増やしていけるよう支援していきたいと考えています。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に1度は外出するようレク委員が予定を組み実行している。		利用者の意見を聞きいれながら家族も含め外出できるように考えていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は利用者が掛けたい時にかけられるように支援している。手紙は本人の希望により職員が代筆することもある。		電話を掛けることに対しては本人の訴えに応じ対応している。他の人に会話が漏れないよう配慮している。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間は決めてはいないが訪問者用のスペースがないので居室で過ごしていたいでいる。		限られたスペースしかないので訪問された方が不快にならないよう配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていないが折に触れて何が身体拘束なのかと話し合う機会がある。		委員会等で議題にすべきことで職員全員が正しく理解出来るよう勉強会を開く予定でいます。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員が一人ひとりの様子を見守り外に出ようとしたときはさりげなく声をかけ一緒についていくなどする。		天気の良い日には玄関の扉を開け放すこともある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホーム内の死角になる部分には目立たぬよう鏡を設置し、廊下や居室の入り口を見渡せるよう工夫している。昼間は職員それぞれが業務中でも周囲を把握できるよう指導も行い、夜間は定時の見回りは勿論それ以外の時間帯でも気配りし、昼夜問わず入居者の安全に配慮している。		業務に追われることなく入居者の様子をさりげなく見守ることが出来るよう心掛けているところです。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要なものは特に所持されている現況は無いが、入居者の意向により事務所内で保管する場合もある。他、ホーム内の物品に関しては、それぞれに応じて管理しているが、入居者が必要との要望がある時には、注意を声掛け、時には見守りし貸し出しをおこなう等の対処をしている。		洗剤類は直接目に触れないしまい方をしている。調理の際、下ごしらえ等お手伝いしてもらう際には見守りを行う。またどんな物でも危険物になりうる事も念頭においている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者それぞれに応じた取り組みを行っている。万が一事故が発生した場合には事故報告書を作成し、全職員でミーティングを行い、原因や改善策を検討している。		一人ひとりのその日の状態を把握しながら支援をおこなっている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応は日々職員に注意を呼びかけている。今後は内部研修での勉強会や、消防署とも連携し、緊急時の訓練を行いたく企画しているところです。		内部研修委員、防災委員が協力し合って緊急連絡網を実際に予行練習するなど事故発生時に備えての企画を立てているところです。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	自衛消防署組織を立ち上げ、職員の役割分担を定めている。消防署とも連携し定期的に消防訓練を行っている。		前は職員と一部の入居者の参加だったので地域の人々の協力を得て訓練がおこなえるよう地域に働きかけていきたいと考えています。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	それぞれの日常生活のリスクに関わる部分については、家族に報告をし検討することを心掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々バイタルチェックを行い状態を把握、記録している。様子の変化が見られるときには担当医に連絡をし連携を図っている。		入居者一人ひとりの持病やアレルギーについてご家族より情報をいただき職員間で共有するように努めています。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は薬剤情報を常に把握するように努め、変更時にも全職員に報告をしている。服薬時には職員間で与薬状況を確認しあっている。		薬の目的や副作用について新しい職員はまだ把握できていないので定期的に勉強会を開催していきたいと考えています。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	午前のおやつ時に乳製品を採り入れ、なるべく自然排便あるよう毎日の体操参加を促がしている。担当医との連携も図り、便秘解消されない時には便秘薬を投与している。		飲食物については食物繊維を多く摂ることや水分量が足りているか等、今後更に、検討していきたいと考えています。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを促がし、入居者に応じ職員が見守りや介助を行っている。		毎食後の口腔ケアは職員の声掛けによりスムーズにおこなえる様になったので、今後も継続していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	飲水量や食事量をチェックし記録に残している。大まかなバランスは考えているが、細かなカロリー計算などは行き届いていない。		可能であれば、管理栄養士などの専門的なアドバイスがもらえるような、機会作りをしていきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	帰設の際には必ず手洗いうがいを促がし、手の触れる箇所には毎日消毒を行っている。共有部分にはペーパータオルを設置している。職員、入居者共に予防接種を受けている。		感染症に対する勉強会を開催するよう、感染予防委員会が企画をしているところです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所清掃や調理器具などの漂白を毎日行い、食材は買いだめせず、食事ごとに分けて保管、余さない様にしている。</p>		<p>調理者や補助業務者、配膳者も工程ごとに、手洗いや消毒を心がけるよう徹底していきたい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>毎日玄関清掃を行い清潔を保持できるようにしている。天気の良い日は開放し、一部だが事務所が見えるようになっている。</p>		<p>植え込みには花を植えてあるが、今後は季節ごとに楽しめる花を増やしたり、ベンチの設置を検討している。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間では入居者がそれぞれ居心地の良い定位置で過ごされ、時間や状況に応じ音楽を流している。食事やおやつには入居者の要望や季節に応じ内容を取り入れている。</p>		<p>世代に合った音楽鑑賞が出来る様、CD等を増やしていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者それぞれが思い思いに居間に集われたり、趣味活動を楽しまれているため、その為のテーブルや椅子、通路の確保を心掛けている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者が居心地良く過ごせるような家具の配置、備品の配置を相談し配慮している。</p>		<p>居室には普段使い慣れたもの、馴染みの物を持ち込んで頂くよう、入居時、ご家族と入居者に説明している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室は入居者が食事中などを中心に換気を行い、清掃中やトイレの消臭等も入居者を配慮しながらおこなっている。</p>		<p>温度調節は入居者ひとりひとりに配慮しながら行っている。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者の安全な動線を配慮した空間作りに心がけ、不安な箇所には必ず職員が見守り、介助を行う。調理時には自立した作業が出来る様、椅子の設置や広さを確保するなどの工夫を行っている。</p>		<p>調理以外にも、可能なことや改善点を検討していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者それぞれに応じ、得意・不得意分野に関わらず自立していただけるような誘導や声掛けを工夫している。自身の力を発揮できるような場面作りなどを職員間で都度相談や意見交換を行っている。</p>		<p>ひとりひとりに応じた自立できる生活内容を、より一層検討していきたいと考えています。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花を生けたり、花壇や菜園をつくり入居者がそれぞれの世話や成長を楽しめるような環境を作っている。</p>		<p>今後菜園脇にもテーブルやベンチを設置し、談話出来るスペースの確保をしていきたいと考えています。建物の周りは未だ整備されていない所があるので運営者とも協議し車椅子でも畑にいけるよう検討しているところです。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・便秘対策のために、工夫して乳製品を必ず毎日提供している。
- ・運動解消、リハビリを兼ね、日曜日以外は必ず30分程度の体操や発声練習を行っている。
- ・菜園作りを強化し、入居者に積極的に参加して頂けるよう声掛けや誘導を行い、役割を担って頂いている。
- ・山菜等の調理には、入居者がそれぞれ比較的積極的に積極的なので、職員が見守りのもと、下ごしらえや調理等を行っていただいている。
- ・居室やホーム内、外清掃など役割分担を行い、参加していただいている。現状では比較的男性入居者が率先して行ってくださっている。